

## 学会 彙報

○九月三十日 恒例の真宗学会研究旅行は、学会員四十名の参加のもとに行われた。午前九時谷大正門を貸切バスにて出発。一休禪師縁りの寺である酬恩院を訪ね、続いて浄瑠璃寺へ参詣。九休阿弥陀堂にて勤行の後、堂前の蓮池の辺りで、日本浄土教の歴史について栗原行信先生の臨地講義を拝聴、各自国宝の三重塔を背景に記念撮影、庫裡にて昼食をとる。午後は徒歩で稲穂垂れる山間の田圃の路傍に、鎌倉・室町時代の阿弥陀仏・弥勒・地藏菩薩の磨崖仏をたずねつつ約一時間、岩船寺に到着。本堂（本尊阿弥陀如来〔藤原初期〕）に参拝、諸宝物を拝観。柿・栗・あけび等秋の味覚の土産物を手に再びバスに帰り、錦秋の南山城路を満喫し、午後六時過ぎ谷大へ帰着。有意義な一日を過ごした。

○十一月十四日 年中行事の真宗学会大会が本学図書館講堂において開催された。今年度は学会内から幡谷明先生が「報身について」、学外からは神戸大学教授の橋本峰雄先生を迎え「本願と予定」の題のもとに、それぞれ一時間半にわたり、

日頃の御研鑽の成果を拝聴、有意義且つ盛会裡に終了した。なお当日の発表にについては、本誌次号に掲載の予定である。

○十二月七日 修士論文中間発表が行われた。「親鸞の彼岸意識について」豊満寛、「懺悔と廻心」吉田法良、「難易二道判」藤森教念、「廻向論の生成と展開」近藤祐昭、以上四君の発表について、それぞれ松原・藤原両指導教授より問題点等、適切な指導があった。

○十二月十四日 文学部卒業論文中間発表。「現生不退論」井上熏、「二河喻の一考察」丸田年正、「悪人正機の一考察」平谷明人、「御文の研究」久我信、「響流十方」岡井義和、「歎異の心」木越慈明、「歎異抄の眼目」峰箇裕善、「悪人正機」竹沢文秀、以上八君の発表の後、それぞれ指導教授の藤原・栗原・幡谷・寺川の各先生から論文の展開、資料について懇切な助言があった。

### 訂正とお詫び

前号の一二頁五行目の「念仏は要なきを要とす」は、「念仏は様なきを様とす」の誤りでした。訂正してお詫び致します。

## 編集 後記

親鸞聖人がその生涯をかけて開顕された真理の道、即ち念仏の教えとその精神は、激動して止まぬ時代の変遷の底を貫いて常に現在し続けてきた。それは、それぞれの時代の人間が苦しみや悲しみを以て切々と問いかけてきた人間の問いに答えつつ、真の「いのち」を与えてきたということであろう。念仏の「いのち」は歴史を超えたものでありながら、而も歴史となつて生きてきたのである。歴史の本質は、そうした本源の「いのち」に生きた人間の生命の営みにある。そうだとすれば、念仏の教えの「いのち」は、教えた人へのみあるのではなく、却って教えられたものの上にあると云わねばならない。教えを受けたものの「いのち」が、教えた人の「いのち」を証していくのである。そこに教えを受けるものの厳しさと使命があるように思われる。

親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年という意義深い年を迎えるに当り、又、奇くも「親鸞教学」が生まれてから丁度十年を経た今、更に本来の使命に向って飛躍せんと願いつつ、親鸞の畢生の

大著、真宗の根本聖典である『教行信証』の精神に触れるべく、ここに「教行信証の研究」を企画し編集致しました。

まず安藤学長には公私に亘って多用のところ、仏教思想史上に於ける『教行信証』の意義を明らかにして頂き、重ねて序言まで寄せて頂きました。深く御礼申し上げます。金子先生には真宗教学の中心問題である行信論について、いつもながらの滋味豊かな玉稿を寄せて頂きましたが、これは健康を害されて殆ど病床にあるとき、本誌のために病身を押して態々執筆頂いたものです。安田先生もまた「根本願、根本言」と題して、深く鋭利な思索を以て行の根本問題を説明して頂きました。又、稲葉先生には『教行信証』全体の性格を『選択集』との連関の上から論述して頂き、赤松先生には鎌倉仏教に於ける『教行信証』の位置或は意義について考察して頂き、横超先生には仏性論の問題を明らかにして頂き、更に伊東先生には「化身土巻」を憶念しながらユニークな論稿を載せて頂きました。

学会内の諸先生には『教行信証』の各巻に亘って、その思考するところを執筆して頂きました。松原先生には「教巻」、

特に『大無量寿経』の仏教史観について論述して頂き、臼井・本多両先生と林特研員には、主として「行巻」から問題を選んで頂き、又栗原・幡谷・大門の各先生と小林・安富の両特研生には「信巻」に関わる諸問題を纏めて頂き、寺川・小野両先生には「証巻」から主題を選んで頂き、江上先生には「真仏土巻」の本願酬報の問題、藤原先生には「化身土巻」における三経の問題を、それぞれ論考して頂きました。『教行信証』全体からすれば、その他種々様々な問題があるうと思いますが、ここではそれぞれの課題から『教行信証』の思想と信仰を説明して頂きました。

又、西谷先生の「現代と仏教」は、かつて真宗学会大会に於ける講演を筆録し掲載させて頂いたものです。最後の曾我先生の論稿は、生前の講義の筆録でありますが、先生の教えを偲んで頂きたいと思います。

最後に、寄稿して頂きました諸先生方と、本号の発刊に当り東本願寺と大谷大学より格別の補助を賜りましたこと、合わせてここに深く御礼申し上げます。

(小野)

昭和47年12月15日 印刷  
昭和47年12月20日 発行

親鸞教学 第21号 900 円

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

親鸞教学編集部

発行人 藤原幸章

大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内中町50

中村印刷株式会社

電話 (313) - 0468番

編集  
発行

発売

印刷